

パナマ・スエズ両運河とも通航料支払額の増加傾向続く —運河通航船実態調査結果—

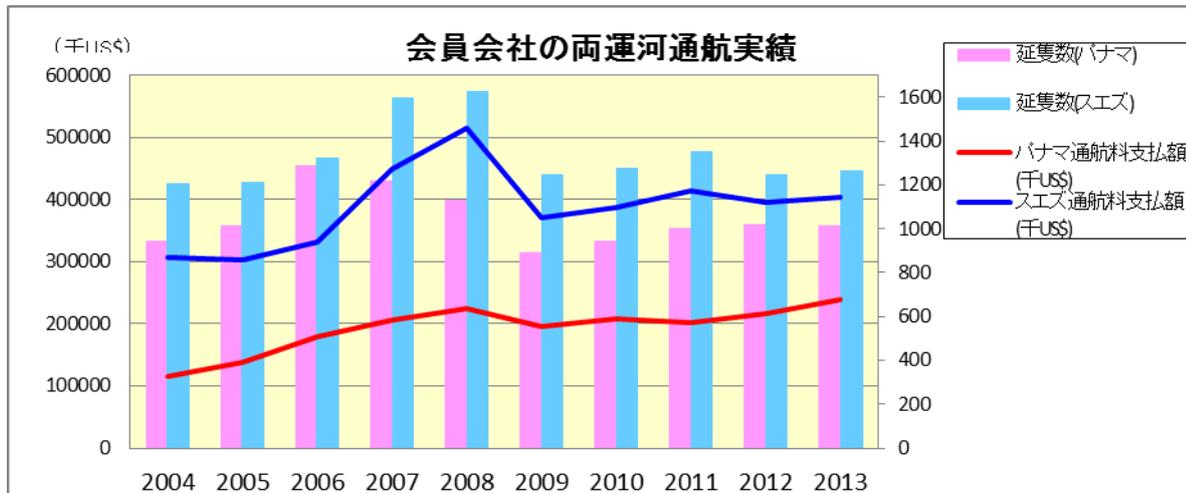
当協会は、毎年会員各社の運航船舶（外国用船を含む）について、パナマ・スエズ両運河に係る通航実態・通航料支払実績の調査を実施しており、今年その結果がまとまった。

調査対象期間は、パナマ運河については2013年4月1日より2014年3月31日、スエズ運河については2013年1月1日より同年12月31日までとした(統計の連続性上)。また、今回から通航船舶種毎の傾向をより詳細に把握すべく、両運河ともに調査対象の細分化を図った。

なお、通航料については用船契約によって用船者等が支払う場合があるため、運河トン数や通航料が不明の例があったため、表中の実績は、調査回答船社が確認できる範囲で集計したものである。

調査の結果、当協会会員会社の運河通航料支払額は、期中の通航料改定の影響等により、パナマ運河は前年比約10%増、スエズ運河が同約2%増となった。

概要は以下のとおりである。



注) 通航料不明や概算等があるため、グラフ中の隻数と通航料総額は対応していない

<パナマ運河>

a. 通航実績

パナマ運河の利用状況は、**通航船社数**が前年度比較で2社減の16社となり、利用隻数(延べ)についても5隻減(2013年:1011隻/2012年:1016隻)となった。**G/Tベース・D/Wベース**ではそれぞれ44,727千G/T(2012年:43,368千G/T)、40,934千D/W(2012年:41,084千D/W)となった。

b. 通航料支払実績(確認分)

コンテナ船以外の料率の基本となる**通航船舶トン数**(PC/UMS: Panama Canal/ Universal Measurement

System※1) ベースでは 27,150 千トンとなり、コンテナ船のベースとなる TEU は 1,001 千 TEU となった。この結果、2012年10月および2013年10月の通航料引き上げの影響もあり、全体の**通航料**は前年(216,335 千米ドル、**概算値含む**)比約 10%増の 237,844 千米ドルとなった。

a. パナマ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2003	14	835	32,525	27,883
2004	13	941	38,710	31,875
2005	17	1,011	42,158	35,998
2006	18	1,284	55,484	42,608
2007	18	1,216	52,405	43,064
2008	19	1,129	48,952	45,087
2009	17	887	40,632	38,385
2010	17	940	40,263	36,866
2011	15	1,003	42,317	41,056
2012	18	1,016	43,368	41,084
2013	16	1,011	44,727	40,934

b. パナマ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	通航料	
				千 USドル	億円(参考)
2003	835	30,810	-	102,157	122
2004	941	39,908	-	115,424	124
2005	1,011	40,083	-	136,981	155
2006	1,284	51,111	-	178,590	209
2007	1,211	34,692	1,127	204,925	227
2008	1,100	28,442	1,123	224,246	225
2009	887	29,234	1,170	195,781	181
2010	940	27,154	1,019	207,716	177
2011	878	26,570	921	202,102	160
2012	871	27,359	965	216,335	180
2013	945	27,150	1,001	237,844	239

注 1) 上記表 b.の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 a.記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 2013 年の通航料の円換算率は、2013 年 4 月～2014 年 3 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=100.34 円を採った。

注 3) 2005 年 5 月より、コンテナ船に対する通航料は、TEU 当たりの料金とする課徴方式に変更となったため、2007 年度調査から延 PC/UMS にはコンテナ船の分を含まないこととした。

注 4) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては 0 とカウントし、延隻数・通航料も除外。

c. 船種別内訳 (2013. 4. 1～2014. 3. 31)

船種別延隻数では、自動車専用船がもっとも多く356隻→380隻に(約7%増)、続いてコンテナ船が209隻→215隻と微増(約3%増)、PC/UMSベースでもそれぞれ19,575千トン→21,040千トン(約7.5%増)、965千TEU→1,001千TEU(約3.6%増)と上昇した。それに伴い通航料も自動車専用船が前年度比7.7%の増加(2013年:100,239千米ドル/2012年:93,046千米ドル)、コンテナ船が前年度比5.1%の増加(2013年:94,367千米ドル/2012年:89,753千米ドル)となった。概算値や不明運河トン等数値の加除、通航料の上昇を含むため単純比較は難しいが、昨年と比べ上昇傾向がみられる。

c-1. 船種別通航実績内訳

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	1	2	57	100
ケミカルタンカー	3	58	1,345	2,185
L P G 船	0	0	0	0
バルクキャリアー	9	324	9,777	17,033
自動車専用船/RORO船	4	380	21,200	6,878
コンテナ船	3	215	11,784	13,928
一般貨物船	2	29	497	791
旅客船	1	1	50	0
その他船舶	1	2	17	19
合計	16	1,011	44,727	40,934

注) 社数合計の16は、調査期間中にパナマ運河を通航した会員船社数であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

c-2. 船種別通航料支払実績(確認分)内訳

(通航料=千USドル)

船種	延隻数	延千PC/UMS	延千TEU	通航料
タンカー	2	47	-	400
ケミカルタンカー	58	1,120	-	6,157
L P G 船	0	0	-	0
バルクキャリアー	260	4,516	-	33,993
自動車専用船/RORO船	380	21,040	-	100,239
コンテナ船	215	-	1,001	94,367
一般貨物船	29	386	-	2,471
旅客船	1	41	-	217
その他船舶	0	0	-	0
合計	945	27,150	1,001	237,844

注 1) 上記表 c-2 の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 c-1 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては0とカウントし、延隻数・通航料も除外。

なおパナマ運河全体では、同運河庁発表の2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)実績によると前年度に比べて通航船舶は減少(前年度比6.08%減)、通航船舶トン数PC/UMSも前年度比3.93%減となった。また、通航収入についても前年度比0.1%減の1,849.6百万ドルだった。

<スエズ運河>

d. 通航実績

スエズ運河の利用状況は、**通航船社数**は前年比 2 社減の 10 社となったが、利用隻数(延べ)は 1,261 隻(2012 年:1,246 隻)と微増したものの、**G/T ベース**では 82,520 千 G/T、**D/W ベース**では 69,123 千 D/W と、ともに前年比微減となった。

e. 通航料支払実績(確認分)

料率の基本となる**スエズ運河トン数**(SCNT:SUEZ Canal Net Tonnage※2) ベースでは、64,006 千トンとなり、この結果、全体の**通航料**は前年(2012 年:395,163 千米ドル) 比約 2.2%増の 404,178 千米ドルとなった。

d.スエズ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2003	13	1,034	51,053	48,155
2004	13	1,203	61,481	55,102
2005	14	1,209	61,014	56,543
2006	16	1,322	61,426	52,359
2007	21	1,595	85,595	77,905
2008	22	1,626	91,830	81,048
2009	13	1,248	74,905	64,440
2010	11	1,272	76,517	61,239
2011	9	1,349	87,782	73,878
2012	12	1,246	82,951	69,176
2013	10	1,261	82,520	69,123

e.スエズ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 SCNT	通航料	
			千 USドル	億円(参考)
2002	842	42,898	189,060	237
2003	1,034	52,018	243,051	282
2004	1,203	60,543	307,470	333
2005	1,209	58,233	303,102	334
2006	1,322	57,929	330,653	385
2007	1,574	81,839	449,637	530
2008	1,620	90,906	514,002	532
2009	1,149	61,552	370,759	342
2010	1,174	64,831	386,848	338
2011	1,199	66,206	414,365	330
2012	1,101	61,962	395,163	316
2013	1,092	64,006	404,178	395

注 1) 上記表 e.の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 d.記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 2013 年の通航料の円換算率は、2013 年 1 月～12 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=97.86 円を採った。

注 3) 通航料不明分については 0 とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

f. 船種別内訳 (2013. 1. 1～2013. 12. 31)

船種別でみると、延隻数では、コンテナ船が 551 隻→520 隻と約 6%減少、自動車専用船は 335 隻→348 隻で約 3.9%増加となった。SCNT ベースでは、それぞれ 39,881 千トン→40,183 千トン、19,051 千トン→20,133 千トンと微増した。その結果、通航料もコンテナ船が 0.44%の微増(2013 年 259,221 千米ドル/2012 年 : 258,079 千米ドル)、自動車専用船が約 3.4%増(2013 年 : 114,008 千米ドル/2012 年 : 110,216 千米ドル)となった。

f-1. 船種別通航実績内訳

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	1	15	226	318
ケミカルタンカー	5	176	2,739	4,583
LPG 船	1	1	26	30
LNG 船	2	107	12,070	9,210
バルクキャリアー	6	12	401	694
自動車専用船/RORO 船	4	348	20,005	6,648
コンテナ船	3	520	46,119	46,525
一般貨物船	1	29	382	563
旅客船	0	0	0	0
その他船舶	1	53	552	552
合計	10	1,261	82,520	69,123

注) 社数合計の 10 は、調査期間中にスエズ運河を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

f-2.船種別通航料支払実績(確認分)内訳

(通航料=千 USドル)

船 種	延隻数	延千 SCNT	通航料
タンカー	15	682	1,231
ケミカルタンカー	171	2,496	24,561
LPG 船	0	0	0
LNG 船	0	0	0
バルクキャリアー	9	243	1,698
自動車専用船/RORO 船	348	20,133	114,008
コンテナ船	520	40,183	259,221
一般貨物船	29	269	3,459
旅客船	0	0	0
その他船舶	0	0	0
合 計	1,092	64,006	404,178

注 1) 上記表 f-2.の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 f-1.記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 通航料不明分については 0 とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

なおスエズ運河全体では、同運河庁発表の 2013 年度実績によると隻数・運河トンともに減り(前年度比 3.6%減・1.4%減)、当局によれば LNG 船、ばら積み船、一般貨物船、自動車船、旅客船のトン数の減少によるものと見られている。

※1 PC/UMS(The Panama Canal/Universal Measurement System) :

1969 年の船舶のトン数の測度に関する国際条約をベースに算出されたパナマ運河庁が 1994 年より採用している船舶容積の測定方法。

※2 SCNT(SUEZ Canal Net Tonnage) :

純トン数規則をもとに、スエズ運河当局独自の控除基準を加えて算出する。二重底船の船底にバンカー油を積載した場合その部分の控除を認めない等、パナマ運河や各国の規則とも異なる独特のもの。